

## 牛久北部地区非特定汚染源対策下水道に関する研究（その1）

全体期間

1995. 3～1996. 3

## （目 的）

近年の湖沼における水質環境基準の達成率は40%前後とされており、水質環境の改善が横ばい傾向か、あるいは悪化の傾向にあることを示している。

湖沼の水質環境の改善のためには、流入する汚濁負荷を効果的に削減する必要がある。一般生活や商業、産業活動などからの汚水によってもたらされる汚濁負荷は、下水道事業の推進により効果的に削減されている。しかし一方では、市街地などにおいて雨水の排除によりもたらされる汚濁負荷が、相当湖沼へ流入していることが明らかになっており、非特定汚染源（ノンポイントソース）といわれている。

雨水は湖沼の全流域から排除されるが、特に汚染が著しいと考えられる市街地からの雨水排除による汚濁負荷の削減が急務とされている。したがって、本調査研究においては、霞ヶ浦の水質環境改善に資するため、雨水排除による汚濁負荷の削減を図り、新市街地の牛久北部地区における非特定汚染源対策のあり方を、市街化された研学地区で調査を行い検討するものである。

## （結 果）

具体的な調査研究は平成7年度から始まるため、平成6年度における成果は特にないが、以下にその調査内容を示す。

- (1) 資料の収集・整理
- (2) 新市街地排出負荷量の現地観測調査
  - 1) 観測施設の設置
  - 2) 雨天時汚濁負荷量調査
  - 3) 補足調査
- (3) 負荷流出量モデルの検討
  - 1) 負荷流出量モデルの作成
  - 2) 観測資料の整理検討

共同研究者：住宅・都市整備公団

財団法人 下水道新技術推進機構

研究担当者：藤田 昌一，山下 順市，伊藤 紀夫

キーワード

非特定汚染源（ノンポイントソース）、負荷流出量、水質環境改善